

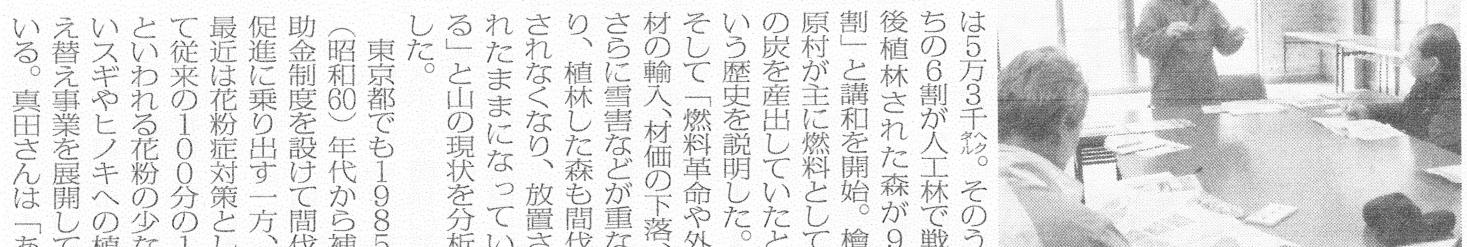
# 森林再生へログハウス造り

◆  
Topics

間伐材の有効利用に取り組む檜原村のNPOフジの森(清水久巳理事長)は2日、間伐材を使ったログハウスを造ろう、という「フジの森・教育の森天然乾燥プロジェクト」の第4回講座を檜原村南郷のフジの森で行った。

地球温暖化防止に向かって森づくりを目指す同プロジェクトは、市民参加で人工林の間伐を促進し、その間伐材を使って、間伐材そのものを天然乾燥するための建屋を造ろうといふもの。プログラムはすでに昨年12月からス

タートし、フジの森会員の真田勉さんが講師



## 檜原フジの森



### 真田さんが語る

5万3千ha。そのうちの6割が人工林で戦後植林された森が9割」と講和を開始。檜原村が主に燃料としての炭を産出していたという歴史を説明した。檜原村が主に燃料としての炭を産出していたと

そして「燃料革命や外材の輸入、材価の下落、さらに雪害などが重なり、植林した森も間伐されなくなり、放置されたままになつていて」と山の現状を分析した。

参加者はヘルメットとノコギリで身支度を整えて山に入り、間伐作業を行った(写真上)。あきる野市瀬戸岡から

初めて参加した田中智

大さんは「市のチエ

ンソード講座に出て、子

どもの頃、山で木を切つて遊んだことを思い

て從来の100分の1とされる花粉症対策として遊んだことを思い出して面白くなつた。

これからは森の再生に

向けてボランティア活動をしていきたい」と

え替え事業を開拓して

話していた。